

「さあ、みんな、考えよう」

「やまなみ工房」のドキュメンタリー映像作品 「地蔵とリビドー」の紹介

柘植地域まちづくり協議会では柘植地域人権啓発合同フィールドワークを年2回行ってきました。しかし、本年はコロナ禍の中、近隣と遠方の両方のフィールドワーク実施を中止しました。

中止した近隣フィールドワークでは、2年に1度訪問している滋賀県甲賀市甲南にある障がい者支援施設「やまなみ工房」でのフィールドワークを予定していました。今回、中止になりましたが、フィールドワークで体感したかったことを観ていただきたいと考え、2018年に「やまなみ工房」が作成し、本年、DVD販売も開始された「やまなみ工房」の様子をおさめた「ドキュメンタリー映像作品 地蔵とリビドー」を柘植地域まちづくり協議会で購入しましたので、紹介します。

ドキュメンタリー映像作品「地蔵とリビドー」公式サイトで紹介文より

独創的なアート作品を生み出し続ける障がい者施設「やまなみ工房」。いま彼らの作品はアメリカやヨーロッパのアート市場を中心に世界的な注目を集めている。工房に通所するのは知的障害や精神疾患を持つアーティストたちだ。彼らは実名で登場し、その日常が包み隠さず描かれている。作品がいつ完成するのか、それは彼ら自身にもわからない。作品が誰にどう評価されるのか、彼らはまるで関心がない。ただ衝動のままに創作し続ける彼らの姿がそこにあるだけ。ひとつ事実として言えるのは、作品が彼らと他者との確かな結節点となっていることだ。アウトサイダーアートに造詣の深いジャーナリストや美術関係者へのインタビュー、障害を持つアーティスト自らが語る「精神状態と創作の関係性」など、彼らの切実な表現欲求の根源を探るドキュメンタリー。

滋賀県甲賀市にある「やまなみ工房」に通うアーティストたちのユニークな創作スタイルや日常生活を約1年にわたって追い、アーティスト自身が語る精神状態と創作の関係性など表現の源を探った2018年制作のドキュメンタリー映像作品です。全編62分の内容は裏面の9作品(opus)に分かれていて、それぞれのアーティストに焦点をあてた構成になっています。

- OPUS 1 EYE EYE NOSE MOUTH / 目 目 鼻 口
- OPUS 2 INK MAN / 割り箸と墨 汁
- OPUS 3 SHE LOVES HIM / 恋粘土
- OPUS 4 HE LOVES THEM / 対話、ときには沈黙による
- OPUS 5 ART >>> FASHION / アートからファッションへ
- OPUS 6 ART > MEDICINE / アートは薬よりも効く
- OPUS 7 VIBES ・ 音の振動、脳から指へ
- OPUS 8 JIZO ・ LIBIDO / 地藏とリビドー
- OPUS 9 PORTRAIT / 若き芸術家たちの肖像



「ドキュメンタリー映像作品 地蔵とリビドー」視聴希望の方は
 柘植地区市民センターにお問い合わせください

11月、12月の講演会や研修会の案内

- 11月 12日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~ 21:00) 青山文化センター
 「障がいのある人とスポーツ ～パラリンピックの魅力」(角正真之さん) [大阪市障害者福祉・スポーツ協会]
- 11月 24日(火) 2020 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
 「部落差別解消推進法を学ぶ」(奥田均さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 12月 5日(土) 2020 人権のつどい (13:30 ~) 青山ホール
 講師 [大阪市立大池 中学校 PTA おやじバンド 古川正博さん]
- 12月 6日(日) 人権を考える市民の集い 2020 (13:30 ~) 伊賀市文化会館
 「誰もがもっている多様な性：LGBTをとおして考える」
 講師 (風間孝さん) [中京大学] トークゲスト (加納克典さん、嶋田全宏さん)
- 12月 8日(火) ライトピアおおやまだ人権大学 (19:30 ~) ライトピアおおやまだ
 「『人権の世界』をつくる」(奥田均さん) [近畿大学]
- 12月 14日(月) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~ 21:00) 青山文化センター
 「社会の狭間に生きる ～多様性社会へ向けて私たちができること」(三木幸美さん)
- 12月 18日(金) 2020 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
 「心の窓を少し開いて ～好感・共感・親近感が人権力を育む」(明石一朗さん) [関西外国語大学]